

# 牛久：学校周辺に見る自然

第44号

牛久市下根町（中根小通学路）

2011年10月10日発行

## < 通学路の片すみで・・・ >

朝晩、だいぶ冷えこむようになってきました。カゼ引きさんも多くなってきましたようですが、皆さんだいじょうぶですか？病気も予防が大切です。さて、今回は 10/6、中根小の勤務の帰りにみつけた、小さな自然の紹介です。小野川沿いに警察署前の通りに出るところに、白いソバの花と赤いヒガンバナがきれいに咲いていました。チョウやハチ、ハナアブ、甲虫類など、たくさんの昆虫が訪れていました。その中から、チョウの仲間を中心にご紹介しましょう。



キアゲハ（左）とナミアゲハ（右）。前はねのつけ根付近のもようが違う。姿は似ていても、幼虫のエサは違う。

よく似た黄色のアゲハが、ヒガンバナのみつを吸っていました。違いがわかりますか？春に飛んでいるナミアゲハ（春型）は、はねが白っぽいので、それで区別もできますが、夏に出るもの（夏型）は黄色が強くなり、区別しにくくなります。前翅のつけ根付近が、左のように黒くぼんやりとぬりつぶしたようになっているのがキアゲハ、右のようにしま模様になっているのがナミアゲハです。よく似ていますが、キアゲハの幼虫はニンジンやセリなどの葉を食べるのに対し、ナミアゲハの幼虫はミカンやカラタチなどの葉を食べます。その他、ヒガンバナには、カラスアゲハなど黒いアゲハもよくやってくるのですが、この日はこの2種だけでしたので、また機会があれば紹介しましょう。



花をのぞいていたら、こんなのもいました。アマガエルです。放射状に花が突きだしたまん中に、どっしりとすわっていましたが、何をしていたのでしょうか？花に来る虫を食べようと、待ちかまえていたのでしょうか？それとも敵から身をかくし、休んでいたのでしょうか？写真をとっていても、逃げずにじっとすわったままでした。その姿には、どこことなく、いやされます。

さて、お次は白い花。ソバです。ソバについては22年度38, 39号を<sup>さんこう</sup>参考にして下さい。



ウラナミシジミ。はねを閉じると、うす茶色の波もようが目だつ(左)。オスは、はねの表が青紫に輝き美しい(右)。

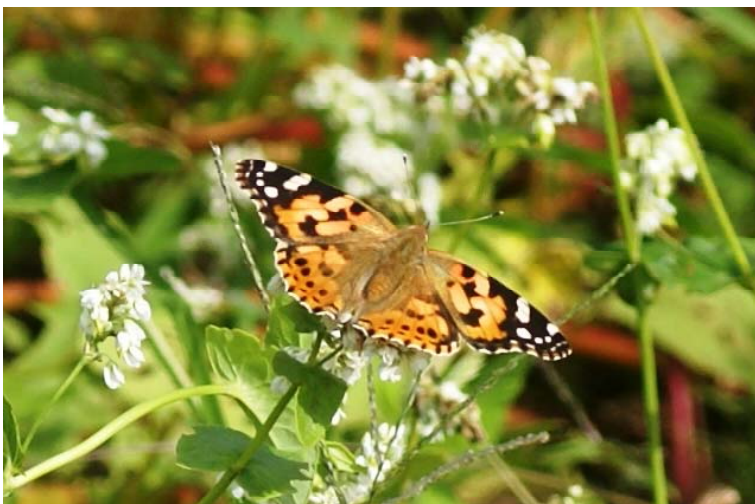
一番多く見られたのはウラナミシジミ。牛久市周辺では、夏の終わりによく見かけるシジミチョウ科の仲間で、夏に北上してくるのだけど、暖かい土地でないと冬を越せないため、関東では三浦半島<sup>ぼうそうはんとうなんたん</sup>や房総半島南端が分布の北限<sup>ほくげん</sup>になっているそうです。先日、ヤマハギで産卵<sup>さんらん</sup>の姿勢<sup>しせい</sup>をとっていたのがいましたが、温暖化<sup>おんだんか</sup>にともなって分布が広がる可能性もあるチョウです。



ソバの花みつを吸うベニシジミ(左)と、これも数多く見られたモンシロチョウ(シロチョウ科:右)。

同じくシジミチョウの仲間、ベニシジミや、皆さんおなじみのモンシロチョウもやって来ました。ウラナミシジミのように、1か所にじっとしてなくて、花から花へ次々とうつついていくので、写真をとるのがたいへんでした。

<sup>ひかくてき</sup>比較的、じっとしていてくれたのが、左のヒメアカタテハ。他のタテハチョウの仲間と同じく、秋によく見かけるチョウで、幼虫はハハコグサやヨモギなどキク科の仲間の葉を食べるそうです。



↑ソバの花みつを吸うヒメアカタテハ(タテハチョウ科)。秋によく見かける。

ソバはあまり害虫のいない作物だそうですが、ヨトウガの仲間、ハスモンヨトウ幼虫がムシャムシャ食べていました。

【理科支援員 宮内】

ソバを食害するハスモンヨトウの幼虫→

